

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第80集

戸坂遺跡群

四ツ塚遺跡Ⅱ

YOTUZUKA

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2000.3

佐久市土地開発公社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第80集

戸坂遺跡群

四ツ塚遺跡Ⅱ

YOTUZUKA

長野県佐久市新子田四ツ塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2000.3

佐久市土地開発公社
佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、佐久市土地開発公社による市道改良（市道39-67）に伴う、埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 調査委託者 佐久市大字中込3056 佐久市土地開発公社
- 3 調査受託者 佐久市大字中込3056 佐久市教育委員会 依田 英夫
- 4 遺　跡　名 戸坂遺跡群 四ツ塚遺跡Ⅱ（TYMⅡ）
- 5 発掘調査所在地積 佐久市大字新子田字供養塚841-3外8筆
- 6 調査期間及び面積 平成11年6月8日～平成11年6月11日（現場作業）
平成11年6月14日～平成12年3月31日（整理作業）
開発面積1,017.5m²
調査面積 320m²
- 7 本調査は森泉かよ子が行った。
- 8 編集・執筆は上原学が行った。
- 9 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

- 1 遺跡の略称 TYMⅡ
- 2 遺構の略称 積穴住居址-H 挖立柱建物址-F 土坑-D
- 3 遺構の縮尺 積穴住居址・掘立柱建物址・土坑1/80
- 4 遺構の標高は各遺構図版上に明記。
- 5 土層・遺物の色調は1988年度版「新版 標準土色帖」を使用。
- 6 調査区グリッドは公共座標に基づき大グリッド40×40m、小グリッド4×4mに設定。

目 次

例 言・凡 例

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過.....	1
第2節 調査体制.....	2
第3節 調査の概要.....	3

第Ⅱ章 基本層序..... 3

第Ⅲ章 造構と造物

第1節 積穴住居址.....	5
H 1号住居址.....	5
H 2号住居址.....	7

第2節 堀立柱建物址.....	9
-----------------	---

まとめ.....	9
----------	---

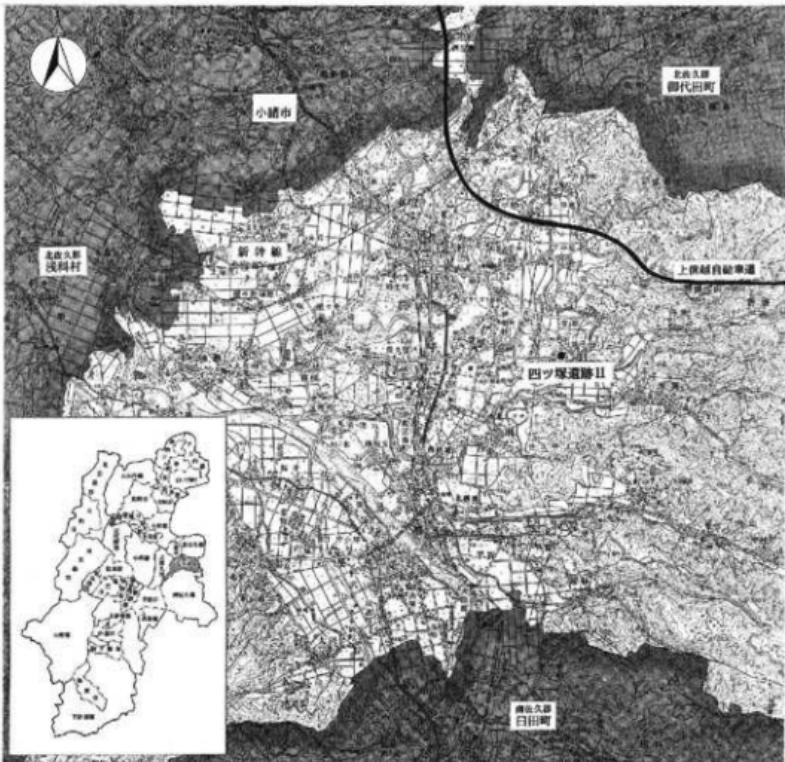
写真図版

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過

戸坂遺跡群四ツ塚遺跡は佐久市大字新子田地積に所在し、湯川の東に広がる標高704m内外の台地東端付近に位置する。また調査区の北東には四ツ塚遺跡Ⅰが所在し、平成10年度に発掘調査が行われ、奈良時代の住居址5軒、古墳跡1基、溝状遺構が確認されている。

今回、佐久市土地開発公社による道路改良事業が行われることとなり、開発地域における遺構の存在を確認するため、平成11年4月に試掘調査を行った。その結果、古代の竪穴住居址が認められたため、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。



四ツ塚遺跡II位置図 (1:100,000)



戸坂遺跡群四ツ塚遺跡II位置図 (1:10,000)

第2節 調査体制

教育長 依田 英夫

教育次長 小林 宏造

文化財課長 草間 芳行

文化財係長 萩原 一馬

文化財係 林 幸彦 須藤 隆司 小林 健寿 羽毛田 卓也 富沢 一明
上原 学 出澤 力 山本 秀典

調査主任 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

調査担当者 森泉 かよ子

調査員 上原 幸子 花里 四之助 花里 三佐子 水間 雅義

第3節 調査の概要

四ツ塚遺跡IIの調査によって、竪穴住居址2軒を検出した。H1号住居址は、北側は調査区外となり、南3分の2が調査可能であった。壁高は70cm前後と深く、かまどは認められなかった。出土遺物の特徴から7世紀末頃と考えられる。H2号住居址は、遺構の全体が調査可能であった。壁高は30cm前後を測り、北壁中央にかまどを構築していた。時期は、6世紀後半ともとれる坏が認められるが、長胴甕の様相がやや時代を下すことから本遺跡では7世紀前半としておく。

四ツ塚遺跡II検出遺構

竪穴住居址 2軒 H1号住居址 古墳時代（7世紀末頃）掘立柱建物址 1棟

H2号住居址 古墳時代（7世紀前半）

四ツ塚遺跡II出土遺物

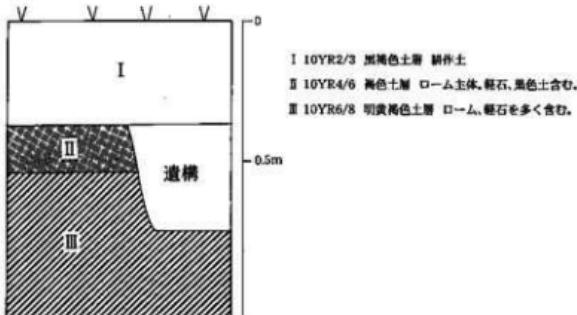
土器（古墳） 坏・甕・高环

須恵器（古墳） 坏

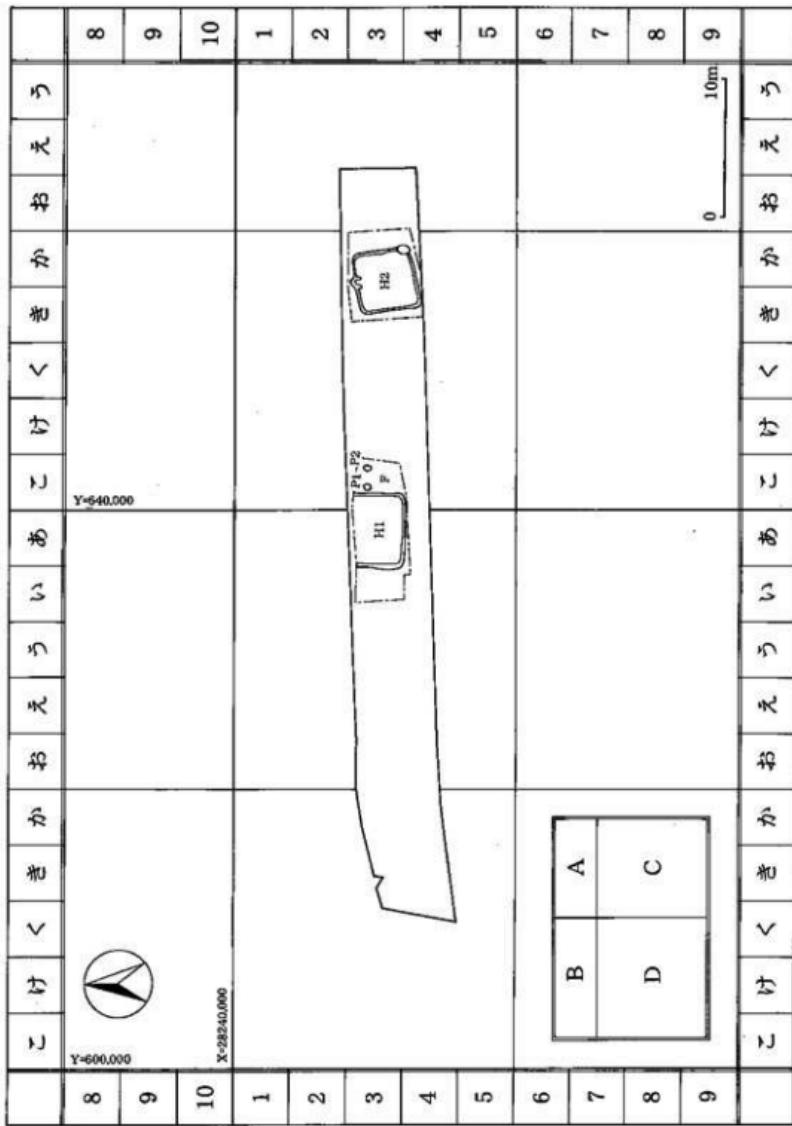
第Ⅱ章 基本層序

四ツ塚遺跡IIは西方の田切り地形及び東方の香坂川によって分断された標高704m内外の台地上に位置する。

発掘調査における層序は3層認められた。I層は黒褐色の表土（耕作土）で、II層は表土とロームに挟まれた褐色土、III層は黄褐色のローム土である。このうち遺構はII層上面において検出可能であった。



基本層序模式図

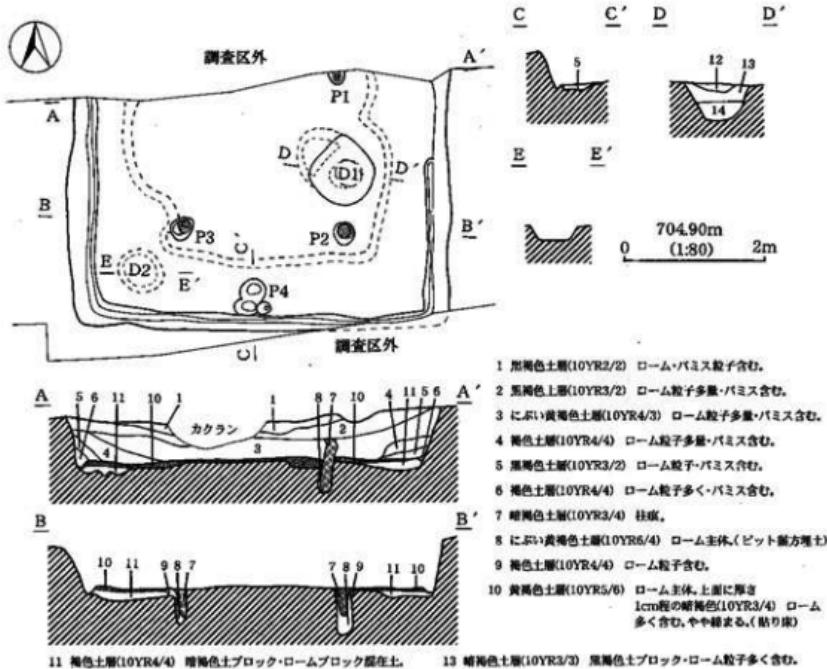


四ツ塚遺跡 II 全体図 (1:400)

第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 住居址

H 1号住居址



11 黒褐色土層(10YR4/4) 増褐色土ブロック・ロームブロック混在土。

12 黒褐色土層(10YR2/2) ロームブロック・黒褐色土ブロック混在土。

13 單褐色土層(10YR3/3) 黒褐色土ブロック・ローム粒子多く含む。

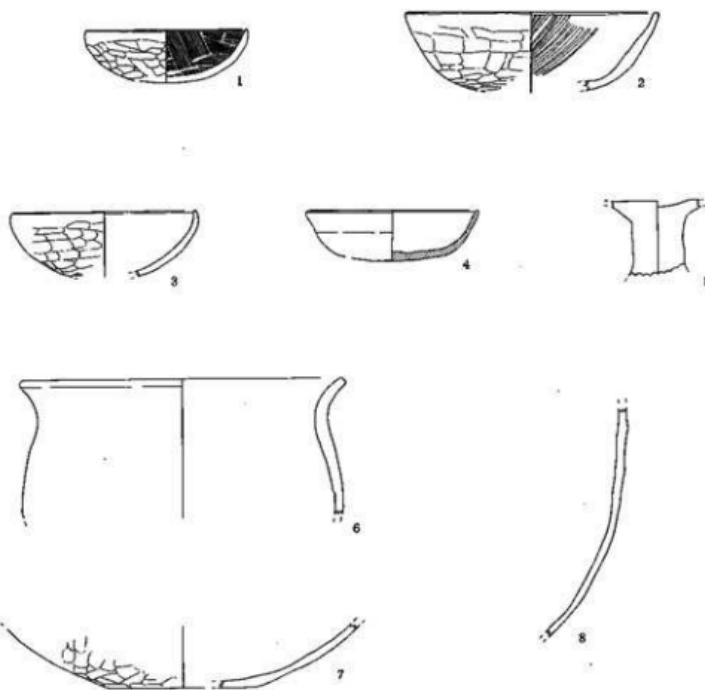
14 單褐色土層(10YR3/4) ローム粒子多く含む。

H 1号住居址実測図

遺構名	検出位置	形態	かまど位置	時期	柱穴(個)	貼り床(cm)	埋方(cm)	出土物	重複遺構
H 1	D-あ-3	方形	不明	Tc未確認	3+1	2~4	0~16	土器類	北側調査区外
■	■	壁長	壁高						
北壁	-	-							
南壁	S34	50							
東壁	(348)	70							
西壁	(328)	62							
遺構は調査区中央に位置する。壁高は50~70cmと高く、やや外傾ぎで立ち上がる。床面は1cm前後の厚さで貼り床されてしまっている。ビットは床面上から4個確認でき、このうちP 1~P 3が主柱穴とと思われる。また遺構セクション図からP 1の柱底と考えられる土層No Tが、床面上部まで達していることが確認できた。かまどは認められなかったが、北側が調査区外であるため北かまどの可能性が高い。竈方は住居中央は高く残し、この周囲を20cm内外掘り込んでいた。									

遺物は土器群の环・甕・高杯が出土した。図示できたのは8点である。

H 1号住居址観察表

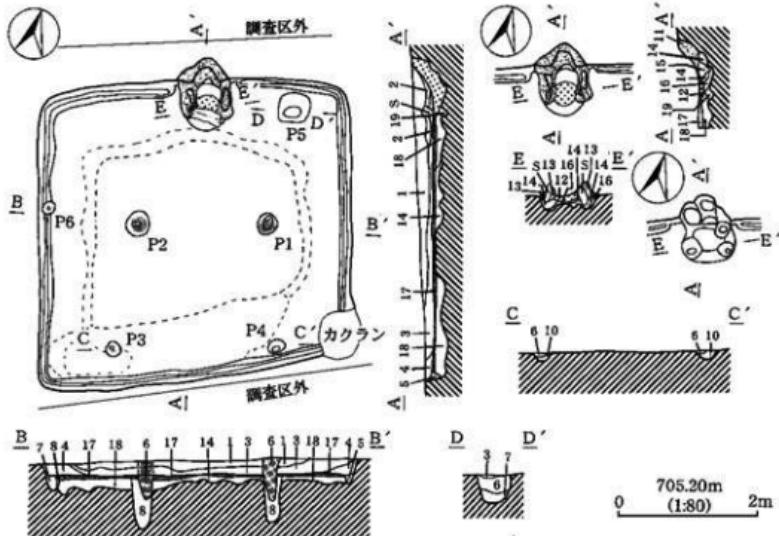


H 1 号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	測 定 値	残存率%	情 成	色 調	備 考
1	土師器	环	(11.6)	丸底	3.2	内面 底部付近へラ削り 内面 ハケ	45	良好	5YR6/4 純い褐色	
2	土師器	高环	(18.0)	-	-	外面 ハラ削り ミガキ	环部 20	良好	5YR5/6 明赤褐色	
3	土師器	环	(12.8)	-	-	外面 ハラ削り ナデ	20	良好	5YR6/4 純い褐色	
4	須恵器	环	(12.2)	(7.0)	3.6	ロクロナダ 底部 側面削り	55	良好	5Y6/1 灰色	
5	土師器	高环	-	-	-	外面 ナデ	脚部の 一部	良	10YR2/2 黒褐色	
6	土師器	臺	(23.2)	-	-	内外面 ミガキ 内面 ミガキ	11脚の 一部	良好	5YR4/4 純い赤褐色	
7	土師器	臺	-	(10.6)	-	外面 ヘラ削り	底部の 一部	良	5YR5/6 明赤褐色	
8	土師器	臺	-	-	-	外面 ヘラ削り後ミガキ 内面 ヘラナデ	全体の 一部	良	5YR4/6 赤褐色	

H 1 号住居址出土遺物観察表

H 2号住居址



- 1 暗褐色土層(10YR3/3) ローム粒子多量黒褐色ブロック含む。

2 黒褐色土層(10YR3/2) カド粘土崩壊層。

3 黒褐色土層(10YR2/2) ブロック・にぶい黄褐色(10YR5/4)ロームブロック混在。

4 暗褐色土層(10YR3/3) ローム粒子多く含む。

5 暗褐色土層(10YR3/4) ローム粒子多く含む。(涙溝土)

6 黑褐色土層(10YR3/2) 柱状。ローム粒子多く含む。

7 嗜褐色土層(10YR3/4) 柱状。ローム粒子多く含む。

8 嗜褐色土層(10YR3/4) ロームブロック・嗜褐色ブロック混在土。

9 黑褐色土層(10YR4/4) ローム主体に嗜褐色ブロック含む。

10 暗褐色土層(10YR4/6) ローム主体。

11 黑褐色土層(7SYR2/2) 粘土ブロック・嗜褐色土層在土。

12 暗褐色土層(7SYR4/6) 焼土。

13 黑褐色土層(7SYR3/2) 粘土。

14 嗜褐色土層(10YR3/4) ロームブロック・嗜褐色土ブロック混在。

15 嗜褐色土層(10YR3/3) ローム粒子多く含む。

16 暗褐色土層(7SYR4/6) ローム主体。

17 黑褐色土層(10YR4/6) 粘土貼り。嗜褐色土層ブロック含む。

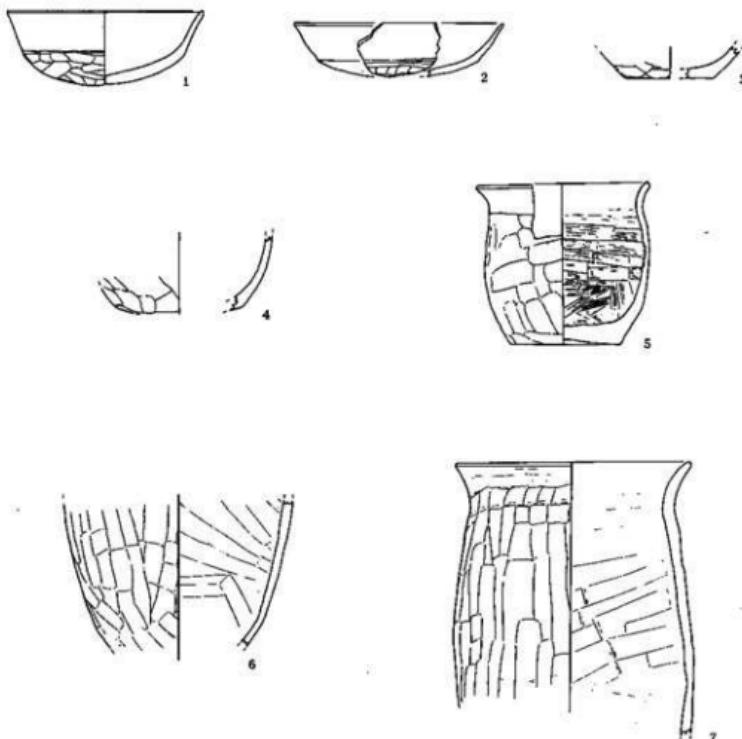
18 暗褐色土層(10YR4/6) 嗜褐色土ブロック含む。

19 暗褐色土層(10YR4/6) ローム主体。

H2骨住居址案測図

遺物は土器の壺・甌・盤が出土した。図示できたのは1点である。

H 2号住居址観察表

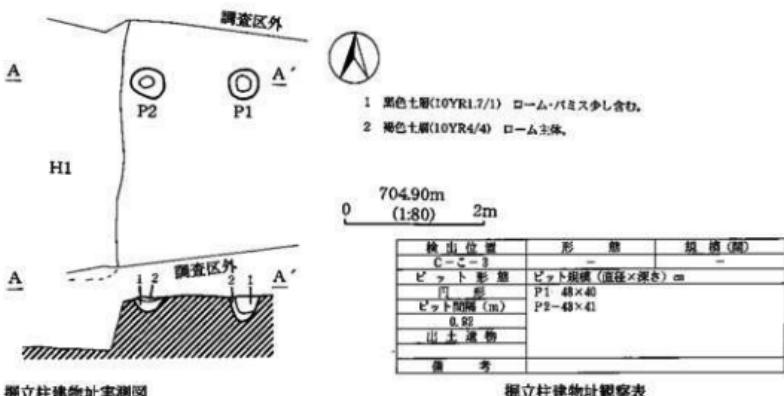


H2号住居址出土遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 査	残存率%	焼 成	色 調	備 考
1	土師器	壺	(13.7)	丸底	5.3	底堅周辺 内面 ミガキ	80	良	10YR4/3 褐色	
2	土師器	壺	(15.0)	-	-	底堅周辺 内面 ミガキ	15	良	10YR4/3 褐色	
3	土師器	壺	-	(8.0)	-	内面 ヘラ削り 外面 ヘラ削り	底部 50	良	10YR3/3 暗褐色	
4	土師器	壺	-	(8.0)	-	外面 ヘラ削り	底部の 一部	良	10YR3/3 暗褐色	
5	土師器	広口壺	12.0	7.8	11.5	外面 底堅 内面 ヘラ削り	85	良	5YR4/4 純い赤褐色 表面滑有 意しい	
6	土師器	壺	-	-	-	丸底 内面 ヘラ削り ヘラナデ	体部の 一部	良	5YR4/4 純い赤褐色	
7	土師器	壺	(16.35)	-	-	外面 ヘラ削り 内面 ヘラナデ	40	良	5YR4/4 純い赤褐色	

H2号住居址出土遺物観察表

第2節 挖立柱建物址



掘立柱建物址実測図

掘立柱建物址観察表

まとめ

戸坂遺跡群における調査は、近年では平成10年度に四ツ塚遺跡Ⅱの北東に位置する四ツ塚遺跡Ⅰ及び、北西に位置する供養塚遺跡の調査が行われ、奈良時代の集落の一部と考えられる竪穴住居址群（8世紀第一四半期）が確認されている。四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡の住居址は、各遺跡の調査区北寄りに集中し、四ツ塚遺跡Ⅱからは北方に60～80mの東西ライン上に点在していた。それ以降には溝状遺構が確認されたものの、古代の住居址は認められなかった。よって、奈良時代の集落は四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡の南には存在せず、北に展開するものと考えられた。今回、南に位置する四ツ塚遺跡Ⅱの調査が行われ、古墳時代後期の竪穴住居址2軒、掘立柱建物址の一部と思われるピット2個が確認できた。これらの住居址は7世紀前半と7世紀末頃の住居址と考えられ、北に存在する住居址群が8世紀第一四半期であることから若干時代が遅る。このことから、四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡で発見された奈良時代の住居址群は予想通り南方向には展開しない可能性が強くなった。しかし、新たに古墳時代後期の住居址が確認されたことによって、戸坂遺跡群内における集落の変遷を考える上で貴重な調査結果となった。おそらく古墳時代後期にはすでに四ツ塚遺跡Ⅱの所在する台地の南端付近には集落が形成され、奈良時代に至って四ツ塚遺跡Ⅰ・供養塚遺跡周辺に集落が移転または新たに形成されていったのではないだろうか。

また、遺跡の東には四ツ塚古墳が所在し、さらに四ツ塚遺跡Ⅰの調査においても7世紀末に築造されたと考えられる古墳跡が認められたことから、今回発見された7世紀代の住居址との関わりも興味深い。



四ツ塚遺跡 II 周辺航空写真（垂直）



H 1号住居址全景（東から）



H 1号住居址堀方全景（東から）



H 2号住居址全景（西から）



H 2号住居址かまど（南から）



H 2号住居址樋方全景（西から）



H 2号住居址かまど塙方（南から）



掘立柱建物址全景（北から）



試掘風景（1）



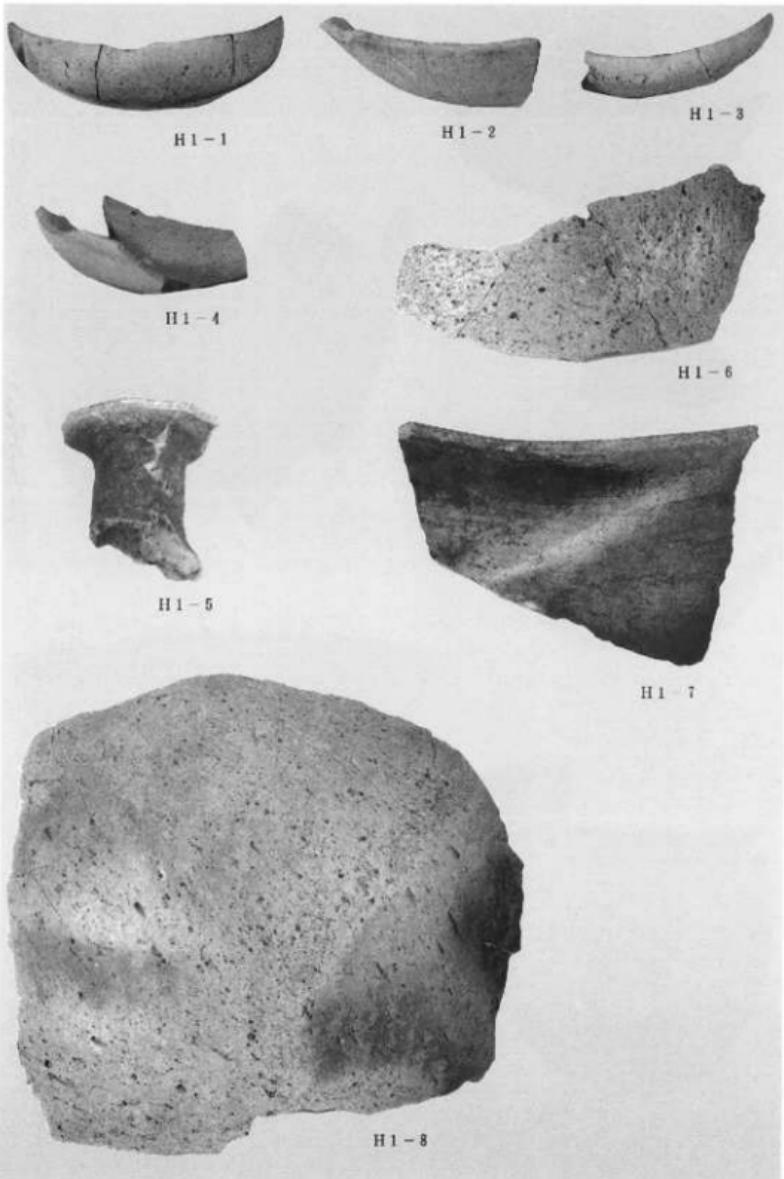
試掘風景（2）



試掘風景（H 1号住居址検出状況）



試掘風景（H 2号住居址検出状況）





H 2 - 1



H 2 - 2



H 2 - 3



H 2 - 6



H 2 - 4



H 2 - 5



H 2 - 7

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | | | |
|------|-------------------------|------|-------------------|
| 第1集 | 『金井城跡』 | 第41集 | 『曾根新城 I ~ IV・V 他』 |
| 第2集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第42集 | 『寄山』 |
| 第3集 | 『石附遺跡群Ⅲ』 | 第43集 | 『櫛現平遺跡』 |
| 第4集 | 『大ふけ』 | 第44集 | 『寺坂遺跡』 |
| 第5集 | 『立科F遺跡』 | 第45集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1994』 |
| 第6集 | 『上曾根遺跡』 | 第46集 | 『渕り遺跡』 |
| 第7集 | 『三貫畠遺跡』 | 第47集 | 『上芝宮遺跡V』 |
| 第8集 | 『纏の下遺跡』 | 第48集 | 『泡畠城跡』 |
| 第9集 | 『田道I-41線関係遺跡』 | 第49集 | 『根井芝宮遺跡』 |
| 第10集 | 『肥原遺跡II』 | 第50集 | 『飯坂遺跡Ⅲ』 |
| 第11集 | 『赤坂外遺跡』 | 第51集 | 『寺中遺跡・中屋敷遺跡II』 |
| 第12集 | 『若宮遺跡II』 | 第52集 | 『坪の内遺跡』 |
| 第13集 | 『上高山遺跡II』 | 第53集 | 『円正坊遺跡II』 |
| 第14集 | 『栗毛坂遺跡』 | 第54集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1995』 |
| 第15集 | 『野馬久保遺跡』 | 第55集 | 『番屋前遺跡I・II』 |
| 第16集 | 『石並遺跡』 | 第56集 | 『肥原遺跡X』 |
| 第17集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1~3月) | 第57集 | 『高師町遺跡II』 |
| 第18集 | 『西曾根遺跡』 | 第58集 | 『下穴田遺跡I』 |
| 第19集 | 『上芝宮遺跡』 | 第59集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1996』 |
| 第20集 | 『下肥原遺跡III』 | 第60集 | 『曾根城遺跡II』 |
| 第21集 | 『金井城跡III』 | 第61集 | 『割地遺跡』 |
| 第22集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 | 第62集 | 『野馬久保遺跡II』 |
| 第23集 | 『南上中原・南下中原遺跡』 | 第63集 | 『西大久保遺跡III』 |
| 第24集 | 『上聖瑞遺跡』 | 第64集 | 『梨の木遺跡IV』 |
| 第25集 | 『上久保田向IV』 | 第65集 | 『中宿遺跡』 |
| 第26集 | 『藤原古墳群・藤原II』 | 第66集 | 『中西II・仲田・寺畠II』 |
| 第27集 | 『上久保田向III』 | 第67集 | 『供養塚遺跡』 |
| 第28集 | 『曾根新城V』 | 第68集 | 『前藤部遺跡』 |
| 第29集 | 『山法師遺跡B・筒村遺跡B』 | 第69集 | 『高山遺跡I・II』 |
| 第30集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 | 第70集 | 『鶴音堂遺跡』 |
| 第31集 | 『山法師遺跡A・筒村遺跡A』 | 第71集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1997』 |
| 第32集 | 『東ノ割』 | 第72集 | 『市道遺跡II』 |
| 第33集 | 『肥原遺跡VI・下曾根遺跡I・前藤部遺跡2』 | 第73集 | 『西一本柳遺跡III・IV』 |
| 第34集 | 『西一本柳遺跡I』 | 第74集 | 『五里田遺跡』 |
| 第35集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1993』 | 第75集 | 『八風山・五斗代』 |
| 第36集 | 『蛇塚B遺跡III』 | 第76集 | 『南近津遺跡』 |
| 第37集 | 『西一本柳遺跡II・中西ノ久保遺跡I』 | 第77集 | 『番屋前遺跡III』 |
| 第38集 | 『南下中原遺跡II』 | 第78集 | 『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』 |
| 第39集 | 『中里遺跡』 | 第79集 | 『四ツ塚遺跡I』 |
| 第40集 | 『寺畠遺跡』 | | |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第80集

戸坂遺跡群 四ツ塚遺跡II

2000年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5963

Tel. 0267-68-7321

印刷所 株式会社 中信社